

平成23年度 事業報告

石西礁湖サンゴ礁基金

1 寄付

全国の方から、オンライン（Give One サイト経由）及び基金口座への振込みによる寄付が寄せられました。社員募金の寄付先に選定して下さった企業、売上の一定割合などを継続寄付して下さったインターネット通販の企業があり、地元企業からも寄付が寄せられました。

平成23年度の寄付金合計 51件 898,797円
（平成24年3月末現在の寄付金累計 231件 2,423,498円）

2 自然再生に向けた取り組み

平成22年度に引き続き、石西礁湖自然再生協議会委員に対して助成する形で、自然再生に向けた取り組みを行いました。

（1） オニヒトデ駆除（酢酸注射法）

石西礁湖及び周辺でオニヒトデの大量発生が継続しています。

八重山ダイビング協会は、これに対応できる新しい駆除方法として、酢酸注射法を取り上げ、その効果の検証を24年3月に石垣島西側海域で実施しました。助成金額は15万円です。

10人のダイバー（計20ダイブ）で388匹を駆除し、効果については、裏返しても起き上がらなくなる、移動しない、刺が倒れるなどが確認出来ました。

これまでの駆除方法では、ダイバーが1匹ずつ捕獲した上、カゴや網袋などに集めて船上に揚げ陸上で処分していますが、酢酸注射法では海中で処理するため、労力軽減とオニヒトデの毒刺に刺される機会の減少が図れます。宮古島では、オニヒトデに刺されたダイビング・インストラクターがショック症状で死亡するという事故も起こっており、死亡事故再発を防ぐためにも酢酸注射法の普及が求められていると思います。

（2） 赤土流出防止（サトウキビ株出し栽培への農法転換推進）

サンゴ礁の再生のためには、サンゴの生育環境の改善が必要ですが、そのためには陸域からの影響の低減が不可欠です。

特に農地からの赤土流出がサンゴの生育環境の悪化を招いているため、赤土の発生量を大幅に削減することができるサトウキビの「株出し」栽培推進を22年度に引き続き、陸域対策グループ干川委員の企画したプロジェクトに助成して実施しました。

現在一般的なサトウキビの「夏植え」栽培は、冬季の刈り取りから夏季の植え付けまでの間、畑が裸地状態となり、台風等で大雨の降る季節にも当たるため、赤土流出の大きな原因となっています。これを、刈り取り後の株から発芽させる「株出し」栽培に転

換させることにより、赤土の発生量を大幅に削減することができます。

「株出し」が普及しない要因として、収穫と「株出し」の作業が集中する点があるので、「株出し管理機」という機械を導入することで農家の作業負担を軽減し「株出し」の推進を図る取り組みを行いました。

平成23年度は、株出しを希望する31農家に対して、株出し管理機の作業実施を支援し、31か所計14.53ヘクタールの畑で株出しを行いました。助成金額は51万円です。

「株出し」の収穫量は1回あたりでは少ないのですが、年平均では隔年収穫の「夏植え」よりも多く、新植経費が省けて、農家経営上も有利です。基金の取り組みの他、サトウキビの増産を目指す製糖会社などとも協力し、さらに「株出し」面積の拡大を図ることが必要だと考えています。

(3) ワークショップ及びインプロシアター「TILT」公演

八重山の地域住民は日常生活の中では、海に入る習慣もないため、海、サンゴ礁との関わりを考えることは少ないと思われます。

これに対し、八重山サンゴ礁保全協議会が、ワークショップとプロ集団による即興劇に参加することによって、その関わりについて深く探求してもらうことを目的に、23年9月17日に実施しました。

ワークショップには八重山高校・八重山商工生等30名、公演には地域住民約100名が参加しました。

助成金額は23万5千円です。